

グローバルリーダーの育成を

平成26年度校友会 県支部総会

平成26年度早稲田大学校友会鹿児島県支部総会ならびに「早稲田を知る in 鹿児島」早稲田大学地域交流フォーラムが、昨年7月12日城山観光ホテルで開催された。



発行
早稲田大学校友会
鹿児島県支部
住所
鹿児島市平之町8-13
平田橋ビル2F
☎099-223-8388

会には、鎌田薫総長他大学関係者をはじめ、百人近い校友・在校生父母らが参加した。

午後3時から開かれた総会では、川畑孝則県支部長の挨拶の後議事に入り、平成25年度事業報告及び決算報告、役員改選などの議題が、いずれも満場一致で承認された。大学側を代表して挨拶に立った梅原竜司総長室校友連携企画担当課長からは、昨年4月に開所した中野国際コミュニケーションプラザや校友を対象とした健康づくり研究、25周年を迎えた早稲田カドの案内など校友会の最近の取り組みが報告された。

引き続き開かれた地域交流フォーラムでは、大学の近況を紹介したDVD「早稲田大学TOPICS」を観覧した後、前月に再選されたばかりで2年ぶりに来鹿した鎌田総長より「早稲田大学のめざすもの」と題した講演が行われた。鎌田総長は、留学生の積極的な受け入れや学生の海外派遣をさらに推進し、世界に貢献する高い志を持った学生をグロー

バルリーダーとして育成する取り組みが求められていると熱く語った。続いて山本研法法学部教授より「事業再生と法」という演題で講演が行われ、日常的な経済現象である企業の倒産について、法律家の視点からわかりやすく解説された。鹿児島県の現状も紹介されるなど、興味深い話に熱心にメモを取



早稲田大学教授 山本 研



る校友や父母の姿も多く見られた。引き続き行われた懇親会には、鎌田総長ならびに大学側関係者のほか在学生父母らも参加し、津曲貞利副支部長の乾杯の後、下園廣一事務局長、藤陽一幹事が司会を務め、様々な早稲田グッズの紹介や販売も行われた。

その後、米盛庄一郎幹事長より川内レガッタ、ゴルフコンペなど今後の事業計画が報告されたほか、新入会員の紹介など、なごやかに会は進み、締めくくりは恒例により、応援部OB岩坪信吉幹事の指揮のもと、全員で応援歌「紺碧の空」校歌「都の西北」を父母も加わり全員輪になって斉唱し、宮川秀樹副支部長の一本締めで総会は無事終了した。

報告 常任幹事 辛島史朗
南日本新聞社(S55年法学部卒)





第23回川内レガッタ戦観戦記

昨年8月31日(日)、第23回川内レガッタが晴天の下、川内川にて開催された。

当初の開催は8月3日を予定していたが、前日までの大雨の影響で延期となり、当日も天候が心配される中ではあったが、風もほとんどなく穏やかな川面でのすがすがしいレースを迎えられる運びとなった。

稲門会チームは今年も気合い充分、平均年齢63歳(くらい?)、増田先輩率いるベテランチーム(Aチーム)と平均年齢35歳、やる気だけは充分、私が乗るヤングチー

ム(Bチーム)の2艇での出場となった。

現在10連覇中の鹿児島稲門会Aチームは今年も前評判が高く、優勝が濃厚と思われる一方で、毎年存在感の薄いBチームも「今年こそは汚名返上を!」と今期よりレノヴァ鹿児島島に加入した早川選手205cm、文字通りの超大型新人を迎え入れの参戦となった。

いざ乗船前、気付けば肝心のコックスをアテンドしておらず、その場でボートの誘導をしていた見知らぬ高校生を捕まえ、「え、ぼ、ぼくですか?」の声を軽く聴き流し、かくして、Bチームは私を含む初心者に毛が生えた2名と超大型新人、そして、もう一人の小型新人と高校生コックスを加えた精鋭5名での船出となった。(後から聞いた話だが、彼は初コックスだったとか…)

しかしいざ乗船してみると、期待の超大型新人は、体が大きすぎて足が伸ばせず、結局手漕ぎを余儀なくされる始末…。小型新人は体に似合わず、オールを水面に直角に入れるダイナミックなフォームで、スタート地点に着くまでにすでに満身創痍。結果、約5秒ほ

どで、周りの景色から他の3艇の姿が消え去り、今年こそと息巻いていたBチームのリベンジマッチはあっけなく終焉をむかえたのであった。せつなく参加いただいた早川選手には申し訳ないが今回は中型新人の参戦を期待したいところ。

さて、肝心のトップ争いはいとうと、今年こそは慶応を優勝に導こう!と事前練習まで敢行したという、三田会Aチームが首位を独走するレース展開となった。息もつかせぬ白熱したレース。(むろん、稲門会Bチームに乗る私にはまったく見えていなかったのだが…)

体力にまさる三田会Aチームが見事に息の合ったオールさばきで、このまま逃げ切るかと思われたが、レース終了間際、さすがは百戦錬磨の稲門会Aチーム、奇跡のラストスパートで見事三田会Aチームを抜き去り、今年も見事に優勝を手中に収める結果となった。

その後の恒例の懇親会では慶応チームとお互いの健闘を称え合い、美酒を飲み交わした。

優勝した稲門会Aチームのおかげで会費も半額となり、稲門会Bチームにとっては悔しくも、強い先輩方と同じ時代に生まれたことに感謝感謝の楽しい宴となった。

何はともあれ、今回も無事に鹿児島稲門会の優勝で幕を閉じることができたわけだが、この先Aチームメンバーが引退された後、稲門会にとって暗黒の時代がやって来ない

よう、次世代を担うエースの登場に期待したい!

報告〓幹事 藤 陽一

多数のスピーチに沸く

平成27年度県支部新年会

今年で6回目となる校友会鹿児島県支部新年会が、1月24日城山観光ホテルで開催された。

会には、50名近い校友が参加し、下園廣一事務局長が司会を務めた。川畑孝則支部長の挨拶に続き、濱田紘一顧問の乾杯が始まった懇親会の中で、米盛庄一郎幹事長より、先に行われた川内レガッタ他早慶ゴルフ対抗戦などの活動報告

また初参加や久しぶりに出席した校友によるスピーチタイムでは、例年になく多数の校友が壇上に上がり会場が大いに沸いた。

会も和やかに進み、目玉である恒例のお楽しみ抽選会では、藤陽一幹事の司会のもと、多数の豪華景品に会場が盛り上がった。スピーチの差し入れや会場手配等でご配慮いただいた城山観光ホテル関係者の皆様をはじめ、景品をご提供くださった方々には心よりお礼申し上げます。

最後は、急遽応援部OBの代役を買って出た、若手の中重真一幹事(H12年法学部卒)、村上誠さん(H20年理工学部卒)、坂田洋昭さん(H24年法学部卒)、の指揮のもと、応援歌「紺碧の空 校歌」都の西北」を全員で斉唱し、無事幕を閉じた。

報告〓常任幹事 辛島史朗
南日本新聞社
(S55年法学部卒)



藤絹織物(株)常務
(H10年理工学部卒)